

体育授業における教師の言語指導の有用性に関する

エスノグラフィー研究

：運動のコツを言語化するスポーツオノマトペを中心として

和田津 皓也（広島大学）

1. 目的

本研究の目的は、小・中学校の体育授業において参与観察を行い、質的研究の有効な手法の一つであるエスノグラフィーを援用し、運動のコツを言語化するスポーツオノマトペを中心として、体育授業における教師の言語指導の有用性を明らかにすることである。

2. 方法

本研究では、先行研究からスポーツオノマトペに着目して、(1) 感覚・共有性 (2) 置換・簡潔性 (3) 能力・意欲向上性を分析的枠組みとした。

- 1) 調査期間：2021年10月19日～11月30日
- 2) 調査対象：A県の小学校教員3名（A, B, D教諭）、中学校保健体育科教員1名（C教諭）。
- 3) 調査方法：エスノグラフィーを援用し、対象教師4名の授業への参与観察およびD教諭へ半構造化インタビューを行った。また、内容の分析にはKJ法を援用し、概念図を作成した。

3. 結果と考察

授業への参与観察をもとに対象教師4名の言語指導の特徴を以下の表1及び図1, 図2で表した。

表1 理論的枠組みの観点からみた対象教師4名の言語指導の相違点

	感覚・共有性	置換・簡潔性	能力・意欲向上性
A教諭	○		(○)
B教諭			○
C教諭			
D教諭	○	○	○

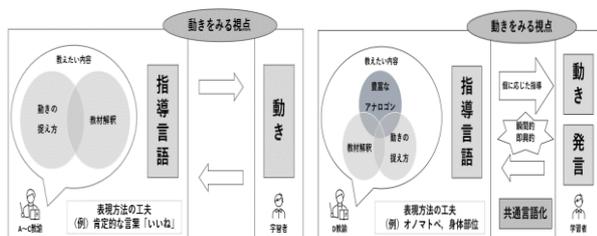


図1 A～C教諭の言語指導

図2 D教諭の言語指導

本研究の成果として、以下の4点が明らかとなった。

(1) 児童・生徒の運動技能向上を目的の一つとする体育授業において、言語指導は先行研究と同様に有効的な指導の一つであった。また、特にスポーツオノマトペに関して、「感覚・共有性」「置換・簡潔性」、「能力・意欲向上性」という3つの特性は、運動のコツを言語化するのに適していた。

(2) スポーツオノマトペを用いた言語指導は、多くの児童・生徒に対して有効的である。特に、運動感覚に乏しい運動技能下位群の児童に対しては、運動感覚の不足を補い、運動イメージを豊富にするだけでなく、児童側から発せられた主観的な表現を教師がうまくスポーツオノマトペに変換することで、教師と児童との共通言語となることができ、運動指導の促進が示唆された。

(3) 学習集団内の運動観察の技能を高めるスポーツオノマトペは、教師が共通言語化することで、児童・生徒の「主体的・対話的で深い学び」にもプラスの影響を与える可能性がある。

(4) 教職経験が浅い若手体育教師が質の高い言語指導を行うためには、教材研究や技能分析を通して教師自身が技能を理解する運動観察眼を養い、多様な運動感覚を身につけることが必要である。

以上のことから、体育授業において言語指導、つまり運動のコツを言語化するスポーツオノマトペは有効に作用することが明らかとなった。

4. 主な参考文献

- 1) 吉川政夫（2013）運動のコツを伝えるスポーツオノマトペ. バイオメカニズム学会誌, 37 (4) : 215-220.